



日本共産党 荒川区議会議員
Japanese Communist Party

横山幸次 区政通信

E-mail:kouji.office@gmail.com



新型コロナ対策と 生活全般にわたる要望 くらしと生業応援のために

1、第6波への万全の備えを
再び入所施設などでクラスターが
起きないためにもPCR検査を拡大し、
いつでも、どこでも、誰でも無料で
検査する

新年度における保健所体制の抜本的拡充、とりわけ通常の保健所業務を遂行しつつ感染症にも対応できる体制整備

原則自宅療養の撤回を国に求めるとともに必要な医療を受けられるよう重症化を防ぐ抗体カクテル療法を行う病床確保など医療機関との連携、支援の強化を進める。

3、中小事業者の緊急実態調査を行うとともに、区として事業継続のための独自補助事業を実施すること。

4、政府の給付金対象から外れる低所得者への給付金をはじめとした独自支援を実施すること。

5、「生活保護は国民の権利」をわかりやすく周知・徹底し、利用条件

来年度予算要望・497項目を区長に提出 みなさんの声を届け、実現にむけて全力！

819 2021年12月26日
日本共産党荒川区議会議員団
区役所控室 3802-4627
横山事務所 &fax
3805-0504
荒川区町屋5-3-5

定例法律相談
1月11日(火)
18時～20時
横山区議事務所
※1月は正月休みのため
曜日を変更します

満たした方が申請しやすい環境と大変さに寄り添った制度運用を行うこと。

6、子どもの医療費無料化を18歳まで引き上げること。

7、高齢者など難聴の方への補聴器購入助成を実施すること。

8、住宅政策として、公営住宅入居基準内のひとり親世帯への家賃助成制度を実施すること。

9、生理用品を公共施設の個室トイレに常備すること。

10、ジェンダー平等と多様性が重視される荒川区をつくる第一歩としてパートナーシップ条例の制定を決断すること。

11、廃プラスチックの回収、リサイクル事業について早急に全区に拡大すること。

12、「町屋さくら」を存続すること。高齢化社会の急速な進行の下、区内の交通不便地域解消など移動制約者対策をまちづくりの中心課題に据えるための公共交通政策を策定すること。



長期にわたる新型コロナウイルス感染で、区民の健康と命深刻な影響を受けています。またオミクロン株感染の広がりもあり、最大限の警戒と第6波に向けた備えが何よりも重要となっています。また、こうした中、国などの支援策が届かない多くの

満たした方が申請しやすい環境と大変さに寄り添った制度運用を行うこと。

6、子どもの医療費無料化を18歳まで引き上げること。

7、高齢者など難聴の方への補聴器購入助成を実施すること。

8、住宅政策として、公営住宅入居基準内のひとり親世帯への家賃助成制度を実施すること。

9、生理用品を公共施設の個室トイレに常備すること。

10、ジェンダー平等と多様性が重視される荒川区をつくる第一歩としてパートナーシップ条例の制定を決断すること。

11、廃プラスチックの回収、リサイクル事業について早急に全区に拡大すること。

12、「町屋さくら」を存続すること。高齢化社会の急速な進行の下、区内の交通不便地域解消など移動制約者対策をまちづくりの中心課題に据えるための公共交通政策を策定すること。

「町屋さくら」継続へ切実な声集め 1300を超える署名を区長に提出…



12月22日、1300筆を超える「町屋さくら」の存続を求める署名を区に提出しました(左写真)。この署名は、地域で集められ、届けられたもので、賛同する地域のみなさん、横山区議事務所、荒川生活と健康を守る会、新日本婦人の会荒川支部、年金者組合荒川支部など参加しました。荒川区からは、松土防災都市づくり部長、松崎担当部長の二人が応対。

懇談では、「買い物も医者に行くのにバスがないとだめ」「高齢者が多い都営住宅が集中し、無くなると不安」「生活に密着している」など切実な声が多く出されました。区側は、移動手段が必要という認識を示し、「福祉的」な対応を検討するなどと答えました。しかしあと3カ月余で無くなることについての対応策はありません。やはり、補助金を投入しても「町屋さくら」を存続しながら、今後の対応について全区的な公共交通のあり方の検討と具体化が急がれます。

みなさんのご意見をお寄せください。

裏面 廃プラスチック回収、リサイクルモデル事業など

まちの話題あれこれ
今年もコロナ禍で師走を迎えたが、昨年に比べて少しは賑わっているようです。走が続いていたように見えました。さて今年はどうでしょうか。師走に入るとまちはどんな景色に様変わりしていくのか、毎年興味深く見つめてきました。残念ながらこの2年間は、新型コロナウイルス感染拡大もあって、なんとも寂しい師走が続いている

ます。
横山幸次



はセグ1冬2つとすてて抽い選会のラッキーフラッグの商

尾竹橋通りの商店街には、「ウラツキララ」のラッキーフラッグが並んでいました。さて今年はどうでしょうか。

走が続いていたように見えました。さて今年はどうでしょうか。師走に入るとまちはどんな

景色に様変わりしていくのか、毎年興味深く見つめてきました。残念ながらこの2年間は、新型コロナウイルス感染拡大もあって、なんとも寂しい師走が続いている

廃プラスチックモデル回収が始まりますか 中間処理施設を視察して見えてきた課題



視察の様子

実施団体名	世帯数
町屋六丁目団地町会	約 550
尾竹橋公園スカイハイツ自治会	約 200
ハイツ町屋自治会	約 200
東京ラ・クラシア (原町会)	約 150
イニシアフォレスト町屋 (原町会)	約 80
計	約 1,180

簡単ではない廃プラのリサイクル使用の削減と合わせて
来年3月から町屋5、6
「丁目の都賀住モヤマンショ」
ンの一部（左表参照）で、
可燃ごみとして焼却してい
た廃プラスチック（以下
「廃プラ」）を回収しリサ
イクルに回す取り組みのキ
デル事業が始まります。
12月17日、区議会環境清
掃委員会として、この事業
で廃プラの中間処理を行
大谷青運株式会社（足立区）
の作業現場を視察してきま

サイクル：手間も時間も
た取り組みで負荷の軽減が
した。この事業者は、既に
杉並区や葛飾区の廃プラの
処理を請け負っています。
各区から運び込まれた廃
プラは、収集車ごと計量を
来ない、廃プラの圧縮・梱
包機に投入されます。しか
しここで問題があります。
こうした廃プラの中に混入
している危険物を取り除く
作業は、人の手によつて行
われます（左写真下）。

その中に発火するリチウ

マイオン電池や注射針など医療機器なども混ざつているようで大変な作業です。その後、一定の大きさに圧縮梱包されて中間処理が終了、再生の過程（再製品化）に回ります。

これまで荒川区は、ペットボトルやトレイ以外は、全て可燃ごみで焼却し、二酸化炭素も含め環境負荷は大きなものでした。

日本共産党区議団は、最初から廃プラの焼却に反対、廃プラ回収リサイクルを主張してきました。同時に、

プラスチックとして出せない「禁忌品」

プラスチックに混入している医療系プラスチック・カミソリ・ライター・電池・刃物類・電子タバコ・電子機器は、再生工場で作業する間に危険な「禁制品」と呼ばれています。禁制品は絶対にプラスチックに混入させないでください。



保温バッグ、保冷テープ、
エアーマット、マイケル、
黒泥炭、加熱ポリゴン、電気機器

めの必要性ない。やがて強く
した視察でした。

廃プラリサイクルには、大きなコストもかかります。やはり、プラスチックの使用を減らす事と同時に進める必要性をいつそう強く

日本共産党区議団は、最初から廃プラの焼却に反対、廃プラ回収リサイクルを主張してきました。同時に、

トボトルやトレイ以外は、
全て可燃ごみで焼却し、二
酸化炭素も含め環境負荷は
大きなものでした。

マイオン電池や注射針など
医療機器なども混ざってい
るようで大変な作業です。
その後、一定の大きさに
圧縮梱包されて中間処理が
終了、再生の過程（再製品
化）に回ります。

介護職の待遇改善と増員こそ必要

政府が介護施設の入所者3人につき少なくとも1人の職員を配置する現在の基準を見直し、1人で4人介護可能にしようと検討中しています。しかし、日本の介護職員数は、デンマークの三分の1、ドイツの半分と極端に少ない現状です。政府の検討とは逆に介護職員を増やす施策こそ必要ではないでしょうか。

介護に生産性を求めるべきではありません。介護は人間の尊厳を守るために仕事であらうからです。

日本の介護職員数はデンマークの3分の1、ドイツの半分—介護体制の拡充こそ必要



《お知らせコーナー》

ひろば館の底力

「こんなときこそひろば館」ってご存知

区ホームページ「新型コロナウイルス感染症の関連情報」の中、「ひろば館の底力 こんなときこそひろば館」のコーナーがあります。実施は、区直営の花の木、熊野前、西日暮里二丁目3ひろば館です。事業内容は…

地域巡回 ひろば館職員が地域を巡回、公園等で遊ぶ子どもたちに声掛け、見守り **相談受付** 乳幼児保護者からの育児相談、子どもたちの悩み相談などひろば館事務室や電話で受付

伝言板等の設置 フルーバ館の玄関に伝言板やポスト等を設置

あうちで入るばかん

ひろば館で実施し、家でもできるものをお紹介。おうちdeあそぼう、おうちdeクッキング、おうちde工作などあります。内容は、家族で楽しめる、ことば遊び、しりとり遊びはじめ、クッキング、工作のメニューがずらり並んでいます。（ホームページで公開）

これらの事業は、区の直営で区の専門職員を配置しているからこそできる事業です。これからも大事にしたいと思います。

そしてこんなことも書かれています。「子どもたちの居場所が社会問題となっている中、児童事業を専門とする荒川区ひろば館としてできることに挑戦します。」としています。こうした場所を増やしていくことが大事です。